

トマトの幼苗接ぎ木における簡易養生施設について (第1報)

村上尚穂・森田敏雅・西本 太 (熊本県農業研究センター)

Hisao MURAKAMI, Toshimasa MORITA and Futoshi NISHIMOTO :
Economic Acclimation Bed of Grafting on Tomato

トマトにおいても土壌病害が多発しており接ぎ木割合が増加している。作業性が良いことなどの理由で幼苗接ぎ木が増加しているが養生施設の費用が高いなどの問題がある。当研究室ではトンネル型に被覆資材を使用しただけの簡易な養生施設を検討した。

1. 試験方法

接ぎ木方法：2週間育苗した台木、穂木 (本葉2枚) を30°にカットし、シリコンチューブ (長さ12mm側面に切れ目をいれたもの) で圧着固定する。

養生施設の概要：①支柱を用いて高密度ポリエチレン製スパンボンド不織布をトンネル状に被覆する。②ポリエステル長繊維不織布 (ラブマットU) を敷き、その上にセルトレイを直置きし底面給水させる。日中3回程度シリンジをする (第1図)。3日間程度養生させる。

被覆資材の説明：高密度ポリエチレン製スパンボンド不織布 (タイベック AG700) は反射率90%、水分の透過性が良いというもの。

供試品種：穂木 'ハウス桃太郎' 台木 '影武者' 72穴セルトレイ使用。

試験Ⅰ：台木と穂木のカット角度を斜め30°と水平で活着率の比較をした。

試験Ⅱ：予冷庫を用い暗黒と照明有 (10 μmol/m²・S) で活着率の比較をした。予冷庫の設定湿度は28℃, 90%とした。

試験Ⅲ：1993年12月6日, 1994年5月31日, 同7月13日に接ぎ木を行い外気温湿度が活着に及ぼす影響を調べた。試験場所：育苗ガラスハウス。温湿度は育苗ガラスハウス外, 養生施設内を測定した。

2. 結果及び考察

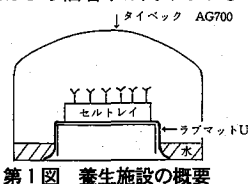
試験Ⅰ：カット角度は水平カットで活着率33.3%斜め30°カットで80.6%という結果になった (第1表)。

試験Ⅱ：暗黒, 照明有では出庫時は96.4%, 96.6%と共に高かったが, その後の順化で55.4%, 76.3%と低くなった (第2表)。

試験Ⅲ：12月6日, 5月31日接ぎ木は91.2%, 94.4%と高かったが, 7月13日接ぎ木は75%と低かった (第3表)。

以上の結果から, 水平カットの方が作業性は良いが斜め30°カットの方が接着面積が大きくなり活着率が優れたと考えられる。暗黒が照明有よりも劣ったことから養生期間中も光を与えることにより後の順化がスムーズに行くと考えられる。今回用いた蛍光灯は10 μmol/m²・Sだったが, 活着に最も適した光の強さを検討する必要がある。12月6日, 5月31日接ぎ木では90%以上と高い確

率で成功したが7月13日接ぎ木では75%と低くなった事から養生期間中の養生施設内の温度は約36℃以下ならば活着出来る温度だといえる。また, 約38℃を越えると活着は難しいといえる。今回の接ぎ木は育苗ガラスハウスで遮光せずに行ったため外気温より養生施設内温度が上がるという結果になったが, 寒冷紗等で遮光して強制的に温度を落とせばより活着率は高くなるものと思われる。



第1表 カット角度による活着率の違い

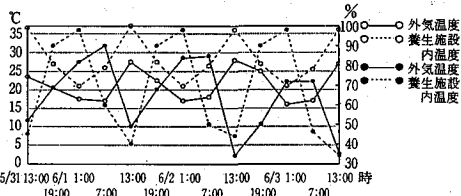
試験区	活着率(%)
斜め30°カット	80.6
水平カット	33.3

第2表 光が活着率に及ぼす影響

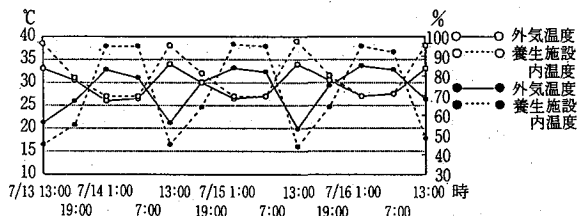
試験区	出庫時の見かけの活着率(%)	順化後の活着率(%)
暗黒	96.4	55.4
照明有	96.6	76.3

第3表 接ぎ木期別の活着率

接ぎ木日	活着率(%)
12月6日	91.2
5月31日	94.4
7月13日	75.0



第2図 外気温湿度及び養生施設内温度 (5月31日接ぎ木)



第3図 外気温湿度及び養生施設内温度 (7月13日接ぎ木)